

平成27年度
入学試験問題

国 語

2月2日 午前

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

(かい書ではつきりと書くこと。)

- (1) アメリカ大陸をオウダンする。
- (2) これからどうなるかをスイソクする。
- (3) テストの日程をコクチする。
- (4) 水分をこまめにホキユウする。
- (5) ドキョウをつけて試合にのぞむ。
- (6) セケンの目を気にして服をえらぶ。
- (7) 食べてみたらイガイにおいしかった。
- (8) パンくずにムラがる鳥たち。
- (9) はずみで本の表紙がヤブれる。
- (10) うるさいくらいにセミがナク。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

「すみません」という言葉は、日本社会では至る場面で頻繁ひんぱんに使わ

れるが、これが人間関係※じゆんかつの潤滑油じゆんかつとなっている。「すみません」というちょっとした謝罪aの言葉aを口にするだけで、場の雰囲気ふんいきは和らぐ。反対に、^①「すみません」のひと言がないことによって、攻撃こうげき的な心理が刺激しげきされることがある。

アメリカなどに行つて強い違和感いわかんがあるのは、店側や会社側にミスがあつて、チケットや商品の交換こうかん、あるいは書類の訂正ていせいを要求し

に行ったときの対応だ。私たち日本人の感覚からすれば、明らかに向こうのミスなのだから、丁寧ていじやうな謝罪があり、気持ちよく適切な

対処をしてもらるのが当然であり、そうなるはずと思ひ込んでい
る。ところが、よくあるのは、

「私の担当じゃない」

といった反応だ。だれでも 1 代行できそうなのに、担当

者は休みだと言われ、出直したこともある。では、担当者はいつな
らいるのかと尋ねても、自分にはわからないと言われたことさえある。

日本人の感覚からしたら、ありえない対応だ。日本であれば、何

かトラブルが発生し、それが自分が担当した件ではなかったとしても、

「それは申し訳ありませんでした」

と丁寧に謝罪するのがふつうだ。自分が担当したんじゃないから
関係ないといった態度を取ることは、2 考えられない。

自分の責任ではない場合にも、3 謝あやまるのか。それは、日

本社会では責任というのは厳密に個人に帰せられるのではなく、組織
集団のメンバー全員に共有されているからである。他のメンバーが
扱あつかった件でミスがあり、謝罪するということの場合、「私」という
個人の責任として謝罪しているわけではなく、「私たち」(弊社へいしゃなど)
という集団の責任として謝罪しているのである。

ところが近頃ちかごろでは、自分の責任ではないといった意識があるせいか、
「すみません」という謝罪の言葉がないケースが見られるようになって
きた。

さすがにアメリカなどのように、

「これは私が担当したわけじゃありません」

などと開き直ることはないものの、「すみません」のひと言がなく、
申し訳ない思いが感じられない。4、別の担当者が作成し
た書類にミスがあつた場合、

「たしかにこれは入力ミスですね。訂正しますので、ちよつとお待
ちください」

と言って、きちんと修正してくれるのはよいのだが、従来②の日本

的感觉からすると、申し訳なきの欠けた淡々とした様子に違和感がある。

向こうには「自分がやったミスじゃない」という意識があるため「申し訳なき」が漂^{ただよ}っていないのだろうが、客の側には何^Iの落ち^く度もないのに支障^bが生じたわけだから、潤滑油としても「すみません」や「申し訳ありません」のひとつ言^ほが欲しいところである。

だが、自己主張や自己正当化を奨励^{しょうれい}する近頃の風潮の中にどっぷり浸^ひかって育^つった者には、

「自分の責任じゃないのだから、べつに謝る必要はない」

といった意識がどこかにあるため、申し訳ない気持ちも生じなければ、謝罪の言葉も出ないのだろう。

そもそも私たち日本人は、なぜすぐに謝ることができるのか。それは、日本社会では、自分の非を認めるということは、場の雰囲気^{II}を良くして事態を丸く収めることにつながり、真実の追^つ及^きや責任の追及とは切り離^{はな}された行^{こう}為^いだからである。

非を認めたからといって、厳しく責任を追及されたりしない。むしろ、非を認めない場合の方が、場の雰囲気が悪くなり、厳しく責任を追及されることになったりしかねない。

日本社会では、だれに責任があるのか白黒ハッキリさせるより、曖昧^{あいまい}なまま場の雰囲気^{II}を良くすることの方が重視される。ゆえに、

容易に謝ることができるのである。

自分の非を認めたら最後、どこまで責任を追及され、賠償^{ばいしょう}を請求^{きんぐ}されるかわからない。だから何が何でも自己正当化に走る必要がある。そうでないと身を守れない。それが欧米^{おうべい}の社会だとすると、日本は正反対と言^いってよい。

日本では、

「どうもすみません。こちらの注意が足りませんでした。ご迷惑^{めいわく}をおかけしてしまい、ほんとうに申し訳ありません」

のように、一方が自分の非を認めれば、相手側も、

「まあまあ、そうおっしゃらずに。こういうことは、よくあることですから」

などと思^いいやりを示し、場合によっては、

「こんな忙^{いそが}しい時期^Iにお願いしたこちらも悪いので」

などと、被害者^{ひがい}であるにもかかわらず、自分に非があったとまで言^いい出すこともある。

謝罪した相手には寛大^{かんたい}な態度を示さなければならぬといった文化的規範^{きはん}が人々の心の中に刻み込まれている。けっして謝った相手をそれ以上攻撃するようなことはない。そんなことをする人物は下^げ劣^{れつ}な人間ということになる。

このように謝罪を重んじ、どちらの責任かをハッキリさせずに、

思いやりの心の交流によって、「お互い様」といった落としどころにもっていき、場の雰囲気を良好に保つ日本流のやり方は、いわば「個人の責任」でなく「場の責任」とする発想である。

80

特定の個人に責任を負わせようというのではなく、その場の状況がトラブルを生んだと見なす。状況が悪かったから、やむをえないのだ、と。ゆえに、だれのせいなのかと悪者探しをして、特定の個人を責め立てたり、責任を追及したりといったことはせずに、ものを穏便に収める。そういった発想が根づいているから、気軽に謝ることができるのである。

85

先に例としてあげたように、客からのクレームに対して、欧米社会のように、

「私が担当したものではありません」

などと突き放したりせずに、

「申し訳ありません。すぐに対応させていただきます」

90

と、自分が担当したものではないのに申し訳なさそうに謝罪し、慌てて対応しようとするのも、「場の責任」という発想による。場の責任なのだから、だれが直接担当したかに関係なく、その組織のメンバー全員が責任を自覚する心理構造になっている。

95

白黒ハッキリさせて責任を追及したりせずに、ものごとを穏便に解決しようとする日本的なやり方は、このような「場の責任」とい

う発想のもとに成り立っているのである。

ところが、このような「場の責任」という発想も、若い世代の間では揺らぎ始めている。

110

同僚がミスをして、お客からクレームが来て、不在の同僚に代わって淡々と書類の修正をした若手に対して、不満げな様子の客が帰った後に、

「なぜ謝らなかつたんだ。こっちの手違いでお客様に手間をかけたのだから、丁重に謝らないとダメだ」

と、上司として注意した。それに対して、

105

と反論するのには、上司は呆れつつも、時代の移り変わりを実感したという。

何かにつけて「海外ではそんなことないのに、日本はおかしい」

110

といった議論がしばしば見られる。何でも海外を基準にして日本のやり方を批判する。謝罪に関しても、その手の議論を耳にすることがある。

自分が悪くなくても、やたらと「すみません」を連発して謝るのは日本人くらいで、非常に見苦しい。そんなに低姿勢に出ることはないじゃないか。欧米人みたいに、もっと堂々としていればいい。

115

そもそも心から自分が悪いと思っていないくせに、形だけ「すみま

せん」と謝るのはいやらしい。そんな風に批判されることもある。

しかし、このようなコメントをする人は、日本文化の中で謝罪というもののもつ意味を理解していない。「すみません」という謝罪の言葉は、

Y

個を重視する発想や自己主張を重んじる発想が欧米から流入し、海外を基準に自己批判するのが好きな日本人の間で欧米流のコミュニケーション論がもてはやされ、場とか間柄あいだがらに重きを置くコミュニケーションに揺らぎが生じている。

(榎本博明『ディベートが苦手、だから日本人はすごい』)

125

※潤滑油……摩擦を少なくするために機械にさす油のこと。ここで

は、比喩的につかわれている。

※クレーム……苦情、文句。

問一 線 a 「謝罪」・ b 「生」じたの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 線 ①とありますが、これはどのようなことを言っているのですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「すみません」のひと言がないことによって、もしかしたら自分が間違っていたのではないかという疑問が生まれるということ。

イ、「すみません」のひと言がないことによって、やはり自分が悪かったのだと自分を責める気持ちが生まれるということ。

ウ、「すみません」のひと言がないことによって、もしかしたらこれから責められるのではないかという疑問が生まれるということ。

エ、「すみません」のひと言がないことによって、それならば文句の一つでも言いたいという気持ちが生まれるということ。

問三 に入る言葉を次からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。

- ア、たとえば イ、まず ウ、すぐに
- エ、あたかも オ、なぜ

問四 ———線②とありますが、かつての日本ならばどのような対応をするのが一般的であったのでしょうか。「自分の責任ではない場合にも」に続くように三十五字以内で答えなさい。

問五 ~~~~~線Ⅰ・Ⅱの言葉を二字の熟語で表すとしたらどれが適切ですか。次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- Ⅰ 落ち度
 - ア、過失 イ、流失 ウ、失意 エ、失言
- Ⅱ 丸く収める
 - ア、没収 イ、回収 ウ、收拾 エ、収入

問六 ★の部分をよく読み、欧米と日本の違いを表にしました。表

の空らんに入る言葉を指定した字数でぬき出しなさい。

欧 米	日 本	
<input type="text" value="ア (五字)"/> 非を認めず する	容易に謝る	ミスをした場合
あくまでも 特定の個人が負う	<input type="text" value="イ (四字)"/> とみ なし、状況が悪かつ たからやむをえない と考える	ミスに対する責任
どこまでも 責任を追及される	<input type="text" value="ウ (二字)"/> しな い	ミスを認めた後

問七 にはどのような反論が入ると考えられますか。

状況をふまえ、自分の言葉で答えなさい。

問八

Y

に入る適切な内容を次から選び、記号で答

えなさい。

ア、それがたとえ心からのものでなかったとしても、言えば効果があるのである。

イ、相手を思いやり、場の雰囲気を良好に保つという重要な役割を担になっているのである。

ウ、日本人のひかえめな態度のあらわれであり、海外とは比べようがないのである。

エ、すべてを解決する魔法まほうのような言葉であり、海外にも通用するものなのである。

問九

本文の内容として正しいものにはAを、正しくないものにはBをそれぞれ解答らん(らん)に書き入れなさい。

ア、アメリカなどでミスへの対処を求めると、日本では考えられないような対応をされることがある。

イ、ミスへの対処法は国によって異なるため、世界共通のやり方を見つける努力が必要である。

ウ、日本では、謝った相手には寛大な心で接する文化があるが、それで利益を失うことが多い。

エ、日本の社会では、ミスはメンバー全員の責任として対処を行うことが多い。

オ、ミスがあれば責め立てる欧米の文化に比べ、日本の文化は人間(人間)間的であり、また現実的でもある。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

飯山先生の机はすごい。教科書、ノート、プリント、新聞、鉛筆、消しゴム、チョーク入れ、むずかしそうな算数の本、コーヒーカップ、大きな定規、辞書、電卓、メガネケース、はさみ、セロテープ、ウォークマン、メモ帳、砂糖、ティッシュペーパー、灰皿、タオル、茶色い封筒、それから、えーとそれから、とにかくなんでも載っている。

ぼくたちは、職員室に行くたびに、うわあすげえってびっくりする。このまえなんか、本の山の上に硯があって、墨汁がたっぷり。そばを通るだけで、こぼれやしないかと、キンチョーした。カップラーメンが、おいしそうな匂いをさせて、ティッシュペーパーの箱の上に、のっかっていることもある。

「先生、机のそうじしないの？ 先生、机を片づけられないの？」
そんなふうに言う友だちもたくさんいるけれど、いつも飯山先生はニコニコしている。ニコニコしながら、こう言うんだ。

①「この机はね、とっても片づいているんだよ。どこに何があるか、先生にはみんなちゃんどわかっている。コーヒーが飲みたくなったら、すぐにカップと砂糖。プリントを作るときには、ほら、ここ

に定規と鉛筆。のりだってはさみだってサツと出てくる。その雑誌のかけには、セロテープがひそんでいて、百も承知さ。はっはっは」

大きなおなかをゆさゆささせて、丸いメガネをちよつとずらして、ぼくたちがふつとぶよぶよな声で笑うんだ。（ぼく、そおつと雑誌をめくってその下を見てみたら、
お昼休みになると、不思議なことに、天井や冷やし中華のぶんだけ、机の表面が見えるようになるし、テストの採点の時には、わら半紙のぶんだけ、まん中が広場になる。

「だから大丈夫、大丈夫。はっはっは」
でもぼくは、先生の机の上の山が、なだれをおこしたのを見たことがあ

つるつるのファイルが六つぐらい積まれていて、それがちよつと隣の先生の机との塀みたいになっていたんだ。それはとてもきれいな塀だったんだけど、ある日飯山先生がその上に、プリントの束をどさっとのつけた。
「a、つるつるのファイルが下の方から斜めに崩れて、つるつるドサーツって、隣の先生の机の方に侵入していった。」

「あつ、すいません、すいません、こりやどうも……」
そのときばかりは先生も大あわて。まあいい顔をまっかにして、

ファイルとプリントを積みなおしていた。

b その塀の上には、もう何ものつけないことにしてみた。

c 、つるつるのファイルは元どおり、今もそこにある。

ぼく、一度だけ、飯山先生の机のことを、お母さんに話したこと

がある。そうしたらお母さん、

B

「お子さんの勉強部屋ぐらいは、自分で片づけさせてください。整理整頓の習慣をつけるのは、大人になってからでは手遅れですって、

先生いつもおっしゃるのよ。先生は、手遅れなのかしら」

d 、ちょっと真面目な顔をして、お母さんはつけ加えた。

「でも、あなたたち、あんまり机のこと、先生に言っちゃだめよ。

飯山先生には、まだお嫁さんがいないの。だからいろいろと大変なのよ」

そうかあ。お嫁さんかあ。先生は独身だから、くつしたも自分で

洗うんだよって自慢してたっけ。かわいいお嫁さんがきたら、先生の机の上も、きれいになるのかな。でも、学校まではそうじに来られないよね。お嫁さんだつてさ、忙しいんだから。やっぱりぼく、飯山先生の机は、ズーっとすごいんじゃないかと思う。

二学期の終業式が近づいてきたころ、学級委員のたかし君が発見

した。飯山先生の机の上に、通知表が重ねておいてあるって。そのときは大丈夫だったけど、もしかしたら、風がびゅーっと吹いてく

るかもしれない。そうしたらぼくらの通知表、花吹雪みたいに職員

室のなかを

C

んじやないかって。

クラスはもう大騒ぎ。みんなきゃあきゃあ言つて、もう全員の通知表が飛んでっちゃったみたいで大コーファン。

1

そこでぼくたち、相談した。だれかが職員室に行つて、そつと重

しをのつけてくるつていうのは、どう？

2

でも、だれが？ だれが、その役をするの？ そうしたら、急に

しーんとなっちゃった。だって、飯山先生にみつかつたら、やだも

んね。先生、傷ついちゃうかもしれない。まわりに他の先生もいる

しさあ。

おまえ、行けよ。えーつ、なんでそうなるの。じゃあ、おまえは？

ぼく、出席番号あとのほうだから、通知表、下になつてると思ふから、風が吹いてもたぶん大丈夫。あー、きつたねーの。じゃあ、あ

おき君、行つてこいよ。一番上だぞー、きつと。

《Ⅰ》の首に鈴をつけにいく《Ⅱ》たちの相談。そんなお話があつたっけ。

結局、じゃあクジびきだつてことになつて、みんなでどきどきク

ジをひいた。あつたのは、まもる君。コーヒーのびんにチョコク

やビー玉やちびた鉛筆を入れて作った重しを持って、

3

て出発した。ぼくたちも、職員室の廊下の手前まで、くつついていく。

しばらくしたら、まもる君が出てきた。コーヒーのびんを手に持ったまま。あっ

5

、どうしたの？

80

「あのね、一生懸命机の上を見たんだけど、みつからなかったんだ。そうしたら、探しているうちに、飯山先生がうしろから来ちゃってさ。おい、何してるんだあ？ って」

「どひゃー。で？ なんて言ったの」

「しかたないから、通知表が風にとばされないように重しを持って

85

きましたって言ったたら、そんな大事なものは、もう机の上にはないぞって。さっき、ほんのちよつとの間、たしかに載っていたけど、今はちゃあんと机の中だって」

あー、よかった。

だけど、三学期の終業式が近づいてくると、ぼくたちはまた心配になってきた。そこでもう一度クジを作って、偵察係を決めるこ

90

とにしたんだ。ときどき先生のところへ行ってさ、机の上に通知表が置いてないかどうか、見てくる係。

今度はぼくがクジにあたった。けど、そんなにイヤじゃない。ぼく、飯山先生の机ってなんだか好きなんだ。そりゃあ他の先生のピカピカきちんとした机も、かっこいいとは思うけれど。

95

三月になってから、一日一回は先生ところに行ってるよ。いな

いときは、机の上をじっと見るだけ。毎日見ると、だんだん慣れてきちゃって、はさみや辞書の置き場所、ぼくも覚えちゃったぐらい。

でも、それが最近ヘンなんだ。先生の机、だんだんきれいになってきたみたい。毎日見ているせいかな、気のせいかなってはじめは思ってたんだけど、やっぱりそうじゃない。ほんとうに片づいてきちゃった。見るたびに本やノートがへっているし、砂糖のびんもなくなっちゃって、今日はつるつるファイルの塀がとりはずされちゃった。

クラスのみんなも言っている。先生の机、このごろお昼の時間じゃなくても、まん中がちゃんどあいてるよって。

D

の

105

へんだな、へんだな。

「先生、お嫁さんがくるの？」

ぼく、思いきって聞いてみた。そうしたら先生、しばらくきよんとしてぼくを見ていた。それからいつものように、大きなおなかをゆさゆささせて、丸いメガネをちよつとずらして、あっはっはって笑うんだ。

「いやいや、そうじゃないんだよ。いつまでたってもお嫁さんがこないからね、ちよつとは自分で片づけようかなって思っているのさ。それにね……」

115

なにか言いかけたみたいだったけど、もう一つ大きい声であっはっ

はと先生は笑って、今度は忙しそうに新聞や雑誌をヒモで束ねはじめた。

それからしばらくして、知ったんだ。飯山先生、少し離れた別の小学校にかわるんだって。ホームルームの時間、^③なんだかこわいよ
うな顔して、話してくれた。

^④「みんなには、もっと早く言おうかともおもっていたんだけれどね。
さよならの準備は短いほうがいいんだよ」

終業式の日、職員室に行って、ぼくたちはほんとうにびっくりした。飯山先生の机の上、なんにもない。

教科書、ノート、プリント、新聞、鉛筆、消しゴム、チョーク入れ、むずかしそうな算数の本もみんなどこかに消えちゃった。

コーヒークップもメモ帳もティッシュペーパーもなんにもない。
先生、行っちゃうんだなあと思った。

(俵万智『先生の机』)

130

125

120

問一 〜〜〜線ア〜エのうち、性質のちがうものを一つ選び、記号で答えなさい。

問二 ー線①とありますが、飯山先生にとって「片づいている」とはどういうことを言うのですか、二十五字以内で答えなさい。

問三 に入るのにふさわしい内容を考えて答えなさい。

問四 に入る語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、でも イ、だから
ウ、それから エ、そうしたら

問五 に入るのにふさわしいことばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、急に顔をしかめた。
イ、くすくすって笑った。
ウ、まゆがびくって動いた。
エ、イライラして言った。

問六 に入るのにふさわしい語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、舞う イ、走る ウ、散る エ、巡る^{めぐ}

問七 に入る語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、うまくいくかな、うまくいくかな

イ、どうしよう、どうしよう

ウ、なんだなんだ

エ、賛成、賛成

オ、いやだなあいやだなあ

問八 —— 線②とありますが、なぜ先生が傷つくかもしれないと思っただのですか。四十字程度で説明しなさい。

問九 《Ⅰ》、《Ⅱ》に入る動物をそれぞれ答えなさい。(ひらがなでよい。)

問十 に入るのにふさわしい言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、テストを広げて採点が楽々できるぐらい

イ、カップラーメンがちょうど一つおけるぐらい

ウ、墨汁と半紙をおいてもまだ余裕があるぐらい

エ、チャーハンと玉子スープが一緒に載るぐらい

問十一 —— 線③とありますが、この時の飯山先生の気持ちとしてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、少しきんちょうしている。

イ、さびしさをかくしている。

ウ、最後にしかっておきたい。

エ、まじめに聞いてほしい。

問十二 —— 線④とありますが、こう言った飯山先生の心の内を次のように表しました。() に入る内容を考えて十字以上十五字以内で答えなさい。

子どもたちに、() 期間を長くしないようにしたい。

